

2010年1月15日  
第186号

題字 住谷悦治



燎原社  
(京都の民主運動史を語る会)  
代表 岩井忠熊  
事務局  
京都市左京区高野東開町1-23  
第三住宅33-302 井手幸喜  
〒606-8107  
tel&fax075 (722) 3823

「燎原」創刊30周年に際し会員のみなさんへ  
京都民主運動史—戦前・戦後の断絶と継続  
創刊当時の『夕刊京都』のこと (3)  
「うたごえ」よ高らかに—京都の「うたごえ運動」の歩みから (7)  
連載 「悼」若杉光夫さんを偲ぶ

会員消息／例会案内／情報スクランプ／編集後記

6

10 8 4 3 2

岩井忠熊 (いわい・ただくま) 本会代表。立命館大学名誉教授。京都市右京区在住。  
一ノ瀬秀文 (いのせ・ひでふみ) 大阪市立大学名誉教授。元『夕刊京都』記者。大阪府交野市在住。  
志摩肇 (しま・はじめ) 行政書士、中京民商常任理事、京都ひまわり合唱団友。京都市中京区在住。  
早見栄子 (はやみ・えいこ) 劇団京芸。京都市北区在住。

〔連載〕

# この一枚

高山市長・蜷川知事  
革新コンビ誕生から60年



高山・蜷川の当選を報じる新聞と民統結成大会のポスター

あれから六〇年、激動の時代のいまこそ、戦前・戦後の京都に脈々と息づく革新的伝統に学び、復活・継承していきたいものである。二月例会に、当時の民統会議の事務局長だった塙田豊次さんを迎えて、思い出を語つてもらうことになった。

2月例会に  
塙田豊次さん  
(元・民統会議  
事務局長)

案内は7面に掲載  
しています。

六〇年前の一九五〇年一月二十五日、高島屋の地下にあった公楽会館を超満員にして「全京都民主戦線統一会議」結成大会が行われた。そして、二月の京都市長選挙で高山義三、六月の参議院選挙で大山郁夫を当選させた。

在住。

## 執筆者紹介

岩井忠熊 (いわい・ただくま) 本会代表。立命館大学名誉教授。京都市右京区在住。  
一ノ瀬秀文 (いのせ・ひでふみ) 大阪市立大学名誉教授。元『夕刊京都』記者。大阪府交野市在住。  
志摩肇 (しま・はじめ) 行政書士、中京民商常任理事、京都ひまわり合唱団友。京都市中京区在住。  
早見栄子 (はやみ・えいこ) 劇団京芸。京都市北区在住。



# 京都民主運動史—戦前・戦後の断絶と連続（試案）

岩井忠熊

## 12月例会の報告レジュメ

12月18日午後、かもがわサロンで開かれた12月例会で本会代表世話人・岩井忠熊氏（立命館大学名誉教授）が2時間にわたり報告しました。20人が参加、質疑も交わされましたが、いずれ論文にまとめられることを期待して、当日用意されたレジュメを紹介します。



12月例会

### I 前史 京都住民の特色

#### 1、京戸→京童→町衆→町人

支配者と距離を置く傾向（城下町町人とのちがい）  
町組……町衆 応仁・文明の乱（洛中の治安維持・生活防衛）  
(今谷明『天文法華の乱 武装する町衆』1989年、平凡社。  
京都市『京都の歴史』10巻1968-76)

#### 2、明治維新と京都住民

遷都による衰退の克服 近代産業（西陣・琵琶湖疏水など）

番組・公同組合（資産と自立的性格）番組小学校

#### 3、大正デモクラシー

第1次大戦と近代都市の膨張

都市暴動→大衆運動→普通選挙→政党内閣

社会主義・労働運動（共産党・総同盟・日農・全水）

モダン・都市文化

軍縮と植民地経営・民族運動

満州事変（31年）、5・15事件（32年）政党内閣の終わり

### II 戦争とファシズムの時代

#### 1、治安維持法体制

3・15、4・16、31—33年弾圧 35年適用範囲の拡大・共中央委全滅

無産政党 社会大衆党の成立と拡大（親軍派と反軍派）

国民教化→国民精神総動員 天皇機関説・国体明徴

#### 2、京都の主要事件

山宣暗殺 合法無産政党の拡大（社大党・日本無産党）

滝川事件と知識人・学生の反ファシズム運動（土曜日・世界文化・学生評論）

合法無産政党と府・市会（登場人物と戦後）

人民戦線は可能だったか？ 36年、37年（「日本の共産主義者への手紙」36年—野坂・山本）

京都市役所左翼事件（登場人物と戦後）

産業報国運動（33年）、産業報国会（40年）→新体制 大政翼賛会（40年）=政党解散

### III 戦後京都民主主義

#### 1、大正デモクラシーと反ファシズム運動の復活と活動

登場人物

高山義三・水谷長三郎……大正デモクラシー  
河上肇・嵯峨虎三（岡部、大橋、上杉）の学統  
……民主府政

学生運動の出身者 府幹部 松尾副知事・岡田教育長職務代理その他

市役所左派 社会部 石田良三郎・中川忠治  
経済 上田作之助（旧産勞）  
文化 富岡益五郎（世界文化）・佐々木時雄

人民戦線派文化人（人文学園・夕刊京都ほか）  
住谷悦治・能勢克男・新村猛・和田洋一……

社大党・日無党（のち社会党・（戦後の活動） 民社党・共産党）  
永井健・津司市太郎・辻井民之助・国島泰次郎・木村忠一・森英吉・生水徳松・南善蔵・田中豊蔵

日農 泉隆

文化・映画 谷口善太郎・絲屋寿雄

学生運動 山田幸次・藤谷俊雄

科学運動 末川博・山内年彦・高橋松蔵・太田典礼など

#### 2、統一戦線をめざして

民主戦線統一會議の評価 半年ばかりの経験（前回宮田氏報告）  
それ以後も統一戦線への志向が存在した—京都の特色（知事・市長選の経過）

# 創刊当時の『夕刊京都』のこと

一ノ瀬秀文（大阪市立大学名誉教授）



(3)

## 一一 創刊時のスタッフとその顔ぶれ

(下)

藤田二朗（市政担当）みぎの三人につかず離れずの関係にあり、朗らかな人物に見えた。五〇年に嵯峨新府政が実現すると、府経済研究所所長に就任。夕刊京都を退職した。

太田和子 婦人問題担当記者。私

より五歳年長。「唯物論全書」（注）の一つの巻にねづ・まさしの筆名で『人民戦線運動史』という著作を書いた研究者禰津正志（本来の専門は日本古代史）と知り合ったが、結婚に至らなかつたと誰かに聞いたことがある。沼田、乙川その他と近い立場で、日本共産党のシンパサイザーだったといえる。

太田は私にとって、『夕京』の中では、日常的にも一番親しい間柄で、私の母などは私が彼女と結婚すると思いつんでいたほどであった。なのに、彼女のことを書こうとするところだけしか書くことがないのが、とても申し訳なく、口惜しい。

および「一九六五年四月～七三年一

（注）一九三〇年代に唯物論研究会を中心メンバーたちによって編集され、三笠書房から刊行された叢書。岩波全書はこれを真似たと思われる。山田洋次監督作品の映画「母へい」に登場する父ベエの野上滋（本名・歳、筆名・新島繁）もこの全書の一冊を書いている。

国分綾子（一九一〇～一九〇七）

寺社・大学担当が主たる守備範囲の時があつたが、同時に高級料理から家庭料理全般に亘つて見識を發揮した。やがて、彼女は料理と食に関するエッセイストとして全国的にも有名な人になつた。能勢克男氏の最初の夫人（一九四二年死去）の旧姓が国分、綾子の姉。森龍吉の項で触れた『宗教界今昔—京都宗教記者会の歩み』によると、『夕刊京都』の記者会員の一番目は森で、森がレバで退職して空白となつたあと会員間は「一九五八年四月～五九年八月

（注）後閑という姓は上野国（こうづけの駅があり、その周辺が後閑という地域である。住谷（角谷）家も中世末に上野国国分村に土着した有力者の家系を持つ。

井上喜代松（一九〇八～一九八九）重要な人物が最後になつた。夕刊京都新聞社発足の時、経理と財務担当の最適任者として経理部長となつた。四七年七月に室町通夷川上ルの新社屋に移転した時、蝶ネクタイをした家令、あるいはホテルの支配人のような姿をした総務部長の井上祥太郎が現れ、社員を驚かせた。祥太郎と喜代松の二人の「井上」は創刊以来、社の経営実務に不可欠のコン

〇月」となつてゐる（宗教記者会は、同じ記者が長期在籍することを好まず、各社すべてが一、二年で交替するルールをとつてゐたようである）。この出版物の巻頭言を大谷光真（全日本仏教会会長）が書き、ページをめくると、いきなり森龍吉が「宗教界の今昔」（冊子のタイトルと同じ）を書いてゐるのが目に入り、そのあと司馬遼太郎、国分綾子と続いてい

る（森は、これが出て八ヵ月後に死去）。国分がかなりの重鎮であつたことが推察される。一〇〇七年五月、川崎市の病院で老衰により他界。没年九七歳。

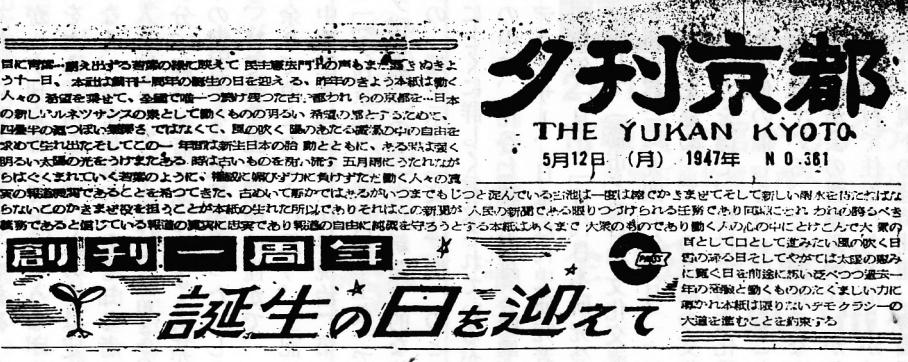
能勢 光（社会部）（一九二三～二〇〇七）克男の次男。彼は獣医学校（北海道大学農学部卒）と聞いたよう思う）を出でて獣医が本業。

五〇年のレッド・ページ後は下鴨の居住地で獣医として有名となつた。人懐っこい親しみを持てるタイプでありながら、必要ないかぎり多くをしゃべらない、無口型の人物だつた。後閑瓊弥。沼田稻次郎とほぼ同世

代。満州新京（ハルピン）からの引揚者で、国鉄山陰線二条駅の裏側（西側）に建てられた狭い木造長屋にあつて『夕刊京都』に就職することになつたようで、彼がロシア語に堪能であることから、毎週夜一回、住谷一彦、馨の兄弟と私の三人が習いに通つてゐたことがある。どういう経緯だったか、それが止まつてしまつた。「麦の穂会」の夕刊京都略史に「一九四九年十一月 後閑政経部長、アメリカ政府の招きで第1回新聞記者留学生に選ばれ四ヶ月間アメリカ出張」と記されている。（注）後閑という姓は上野国（こうづけの駅があり、その周辺が後閑という地域である。住谷（角谷）家も中世末に上野国国分村に土着した有力者の家系を持つ。

井上は最初からプロの経理マンとして育つたわけではなく、同人が一歳の時（この年に私が生まれている）京都市上京区の友仙工場で父の

47年5月12日号。紙不足からタブロイド2頁のトップに「創刊一周年」の社告。「本紙はあくまで大衆のものであり働く人の心の中にとけこんで大衆の目として口として進みた」と宣言している。



直弟子として見習い染色工となり、大正末期から昭和初期の染色工労働組合員として活躍している。やがて階級闘争の思想と理論に出会つて目覚め、また、現実のたたかいの中でたびたび検挙・拘留され、鍛え上げられていった（参照「昭和初期の染色工として井上が労働組合運動で活動していた貴重な記述がある。「旧友クラブ」会報からの転載。井上喜代松「私の労働運動とのかわり」(1)第45号および四月一五日第46号）。(2)、「燎原」一九八四年三月一五日井上が経理の分野に入り、それをマスターしていくのは京都の消費組合運動に本格的に参加したことによるが、そこでも彼は不可欠の人材となつた。そもそもその出発点は、能勢克男が一九二九年に同志社大学を辞職して弁護士を開業した時、同時に京都家庭消費組合を設立したことによる。それは一九三二年の京都消費組合（京消）の創立総会、さらに京消の日本無産者消費組合連盟（のちに日本消費組合連盟という名称になつた）への加盟というところまで進んだ。井上喜代松は「京消」の創立—京都の各地区、各分野で結成されていた消費組合の合併・統一に京都無産者消費組合の代表として参加したのだったが、そこで「京消」の仕事を担うことになった。

「回想の能勢克男」に井上が寄稿した「戦前の消費組合運動と能勢克男」

は貴重な論稿であるが、そのあとの大正末期から昭和初期の染色工労働組合員として活躍している。やがて階級闘争の思想と理論に出会つて目覚め、また、現実のたたかいの中でたびたび検挙・拘留され、鍛え上げられていった（参照「昭和初期の染色工として井上が労働組合運動で活動していた貴重な記述がある。「旧友クラブ」会報からの転載。井上喜代松「私の労働運動とのかわり」(1)第45号および四月一五日第46号）。(2)、「燎原」一九八四年三月一五日井上が経理の分野に入り、それをマスターしていくのは京都の消費組合運動に本格的に参加したことによるが、そこでも彼は不可欠の人材となつた。そもそもその出発点は、能勢克男が一九二九年に同志社大学を辞職して弁護士を開業した時、同時に京都家庭消費組合を設立したことによる。それは一九三二年の京都消費組合（京消）の創立総会、さらに京消の日本無産者消費組合連盟（のちに日本消費組合連盟という名称になつた）への加盟というところまで進んだ。井上喜代松は「京消」の創立—京都の各地区、各分野で結成されていた消費組合の合併・統一に京都無産者消費組合の代表として参加したのだったが、そこで「京消」の仕事を担うことになった。

このようなかたちで能勢と井上（喜）との人間的信頼関係は極めて緊密なものとなつていて、「夕刊京都」の発足に当たつて経理・財務の責任者として迎えられたのは極めて自然だつたといえる。

井上は、またプロレタリア短歌（人民短歌）の歌人であり、すぐれた作品を残している。「燎原」一九八四年九月一五日、第51号に、「回想のレッドページ」というタイトルで八首出ているが、このインパクトは鮮烈である。あの温厚な「喜代松さん」が歌人として、あのレッド・ページの政治的意図を怒りを込めて告発している。そして、原稿運びの未成年の少年社員が職場を追われる非情な仕打ちと不当さを難詰している。

「京消は前記のとおり昭和七年二月設立されました。それから一年後のある夜、壬生での集会が果てから道すがら、能勢さんは私に京消の仕事をやつてみせられました。その機会で私は初めて「燎原」の文章を読むことになりました。このことは私の将来を決定づけたものでした」（一七ページ）。

甲斐漣（少年社員）ほか。創刊時、四名ほどの少年社員がいて、工場まで原稿を運び、ゲラを持ち帰る仕事をしていた。室町通の新社屋に移転してから、その人数はさらに増えた。少年社員たちの向上心は熱烈で、仲間意識も強かつた。彼らのほとんどが住谷悦治、新村猛などの知識人、文化人によって創立された「京都文学園」（これを資金面で支えたのが住谷悦治の義弟堀江友広。詳細は、田中秀臣著「評伝・住谷悦治」、一八一—五五ページ参照）に入学し、思想、理論、文化について学び、吸収している。こうして、彼らは世界や社会、歴史、文化について科学的にとらえ、正しくものを見る能力を身につけるようになった。甲斐は、キュー・ペーのよう可愛らしい少年で、頬は薄赤く、赤い唇をしていて、しかもリーダー格であった。一九四七年に京大を出て入社した記者の畠中好晴と下宿が同じで、勉強を含めて面倒を見て貰つていた。少年社員たちが、戦争と家庭の事情で進学できなかつたが、眞面目でしつかりしていた。前述のように、五〇年のレッド・ページが未成年の少年社員たちに襲いかかつた。井上、乙川と甲斐その他の少年社員たちは、七月書

る。『夕京』の歌人井上は、東京の『民報』の栗原農夫が俳人一石路として現れたのと好一対ということができるだろう。

房（七月はレッド・ページの月）といふ書店で生計を立てることを余儀なくされた。

斎藤栄治。この人についても言及しておく必要があるようである。斎藤が『夕刊京都』でどのようなポストを占め、何をしていたのかは定かでなく、今では彼のことを知る者は一人もいないかのようにさえ思える。多分、経済記者であつたようだが、平の記者ではない風格があつた。しかし、社で姿を見た期間は僅かで、一年余りで消えたように思う。上記の田中秀臣著『評伝・住谷悦治』第9章『夕刊京都』と戦後民主主義』で、『夕刊京都』の「文化新聞」的な特徴の一端を示す「文化」欄のところにとくに詳しく言及されているが、その中で、住谷と絲屋寿雄（映画プロデューサー、日本近代史研究者）が四六年一月に「近代日本研究会」を結成して「都市と農村の文化交流」（『夕刊京都』一九四六年五月二一日の記事）を進め、二八の京都の文化団体の協力を得て、農村での文化講演会その他の催しを行つていていることが紹介されている。その記述のなかに「商工経済会の斎藤栄治氏」が北桑田郡黒田村で住谷たちと泊りがけで出かけ、現下の経済問題、物価問題などについての講演会や研究会を開いていたことが記されている。

四七年のいつ頃か、左京区下鴨の斎藤の自宅に『夕刊京都』の記者た

ちが招かれて、守屋典郎ののちの大著『紡績業生産費分析』の原点的な報告を聞く機会があつた。参加者の顔触れはもはや正確に覚えていないが、藤田二朗、乙川文夫、前川弥太郎と私ではなかつたかと思う。これを記憶しているのは、もはや私一人だけなのである。この前後に前川と私は京都医科に入会していた。斎藤と守屋が古くから（戦前から）昵懇の間柄であることを知つた。守屋は大阪の紡績連合会の研究機関に勤めていたはずである。周知のことと思ふが、守屋は、いわゆる「日本資本主義論争（戦前の日本資本主義の特徴と性格をめぐる論争）」の論客の一人であり、紡績業の専門的研究者として知られていた。

以上ほかにも、まだ記者はいたが、残念ながら記すべき記憶がない（例えば、当時三〇歳を過ぎた「荒川さん」というベテランの精悍な顔立ちだが心はやさしい社会部記者がいて、居住細胞でも一緒にいたにもかかわらず、汗顔の至りながら、この人についてここでは何も書けない）。ところで、以上に記した編集局スタッフのなかにプロの「新聞人」は人もいないが、それぞれが高度の専門的学識であるとか左翼的思想・文化運動で弾圧を受けた体験を持ち、社会、政治、文化、思想についていくとらえる能力を身につけていると

いうことでは際立つていた、といえども、時間的に計算すると「もつと昔」のことになるのである。それほど古く想像を絶している。

次回は、いよいよ当時の『夕刊京都』創刊時のことと思い描くのは、六〇年安保の時点で日露戦争（一九

〇四—五年）のことを想起するよりも、時間的に計算すると「もつと昔」のことになるのである。それほど古く想像を絶している。

六〇年安保の時点で日露戦争（一九

## 惠島さんの詩

二〇〇八年四月六日、七二歳

の若さで急逝した惠島良樹さんとの「追悼文集」が昨年末に出来上がった。

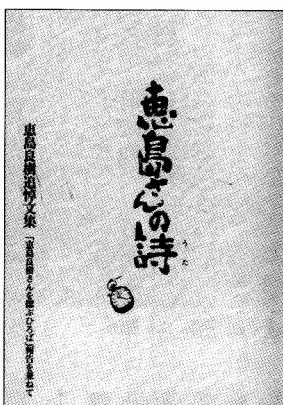
広島県生まれ、職場演劇サークルを経て一九六〇年に劇団芸に入団、舞台監督などを務めたあと、六四年京都スタッフクラブ、七二年にアートステージプロとして事業を広げ、民主団

体の各種イベントに欠かせない人となつた。二〇〇一年に同プロを廃業したあとも惠島さんの世話になる団体は多かつた。

この文集には約四十人がそれぞれの思い出を綴つてゐるが、「黄金の日々」「西陣のうた」全国公演（藤沢薫）、「恵島ちゃんに支えられた日本のうたごえ祭典」（山本忠生）、「温顔の仕事師」（栗原省）、「舞台監督として頼りきつっていたのに」（木津川計）、「いつも夢を追いかけていた惠島さん」（井上吉郎）などいざれも彼の裏方人生への感謝が込められている。

A5判九八頁。「惠島良樹さんを偲ぶひろば」実行委員会発行（非売品）

BOOK



## 『裏方人生』に感謝の文集

## 民主運動史を語る会例会案内

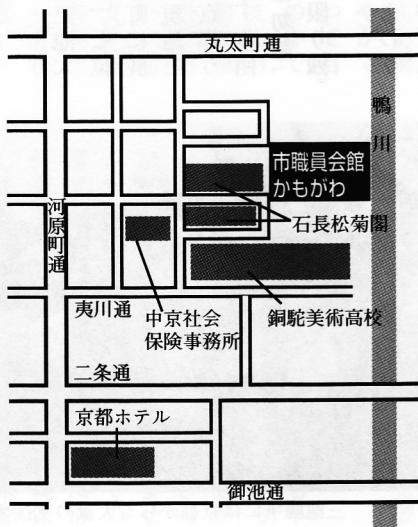
2月13日(土)午後2時~4時30分  
市職員会館かもがわ 会議室

河原町通竹屋町西入る、石長旅館の奥

## 全官公、民統の 思い出を語る

たおだ 語る人 岝田豊次さん(世話人)

岡田氏は1950年1月に結成された全京都民主戦線統一會議(民統)の事務局長。当時、全官公京都地協の専従書記長で、京教組出身。京大に在学しながら小学校教員を勤め、レッド・ページされた。全官公解体後は共産党府委員会常任委員、同中央委員会教育局長、山口・岡山の県委員長などを歴任、現在岡山に在住。90歳。



例会は隔月に開きます。どなたでも参加できます。会員は無料、会員外の方は300円。

### 会員消息



訃報 儀我社一郎先生

長年にわたって会員であった儀我社一郎さん(商学博士、大阪市大・専修大名誉教授)は一二月八日、脳出血のため、神奈川県川崎市の自宅で死去。九〇歳。

【燎原】昨年九月号に「燎原」の最近の充実大いに感銘を受けておりました」とのメッセージ寄せられたのが最後でした。大阪市大時代に伏見区に住み活動されていました。

### 情報



を執筆中。とくに白峯診療所設立運動と「上京生活を守る会」、府立医大でのレッド・ページなどとの関連について調べています。一九五〇年当時の史料がなかなか見つからず、協力を求められました。西京区在住。

### スクランブル

編 集 後 記



日、平安会館で開かれ、中塚氏の一冊目の本の出版を祝った。岩井忠熊氏のあいさつ、井口和起・府立大名誉教授と勝村誠・立命大教授がミニ講演。八〇歳を迎えた中塚氏は、「初めて出版記念の会をしていただいた」と感謝するとともに、NHKのドラマ化による関心の高まりで二〇カ所にも及ぶ講演に呼ばれていることや、朝鮮との関わり抜きに日本の近現代史は語れないと、司馬の「朝鮮観」を批判した。

ラジオ深夜便に出演 小田切さん山宣を語る

一二月一八日、NHKラジオの「深夜便・こころの時代」に小田切明徳さん(本会世話人、宇治山宣会顧問)が登場、「義の人・山宣の青春」を語りました。小田切さんは自著「山宣譚」の内容をもとに短かかったが豊かで充実した山宣の人生と、小学一年で父親を失つたことから、山宣を父親的存在だと感じてきた自らの思いを話しました。

新入会員 西沢いづみさん 立命館大学大学院先端総合学術研究科博士課程で修士論文「京都・西陣における住民の医療運動の実践―その形成過程と特徴に関する考察」

【司馬遼太郎の歴史観】の出版祝う 中塚明・奈良女子大名誉教授著『司馬遼太郎の歴史観 その「朝鮮観」と「明治栄光論」を問う』(高文研)の出版記念の会が一一月二三

開け。二面に記念企画を載せているが、お金がかかるところばかり。残念ながら積立金もなく、会員の拡大が急務となっている。ご協力を。  
▼四月の京都府知事選に出馬する門祐輔さん(京都民医連第二中央病院院長)編の本『田中飛鳥井町いのちのカルテ』(かもがわ出版)が近く発売になる。田中飛鳥井町は病院の住所だが、戦後初の共産党市議になった安井信雄医師が病院を建てた場所。いまも「安井さん」と親しまれている。戦前に発行されていた隔週刊誌「土曜日」の発行所も飛鳥井町だ。そんな思いをこめて地名を本の題にした。ぜひ手に取ってほしい。

(湯浅)

# 「うたごえ」よ高らかに！

## ——京都の「うたごえ運動」の歩みから——

志摩 肇（京都ひまわり合唱団創立参加者）

その7

三井三池へ、そして安保闘争

♪「踏みにじられた者の  
なお誇り高い足音を聞け！」

これは全日本自由労働組合（全日  
自労）大牟田分会作詩グループの詩  
に、作曲は有名な三井三池の労働者  
作曲家荒木栄の「大行進の歌」で、

一九五九年二月「戦争と失業・貧困  
に反対する国民大行進」が行われ、  
九州大牟田を出発した通し行進代表

を久世橋で迎えた我々は、リレーさ  
れてきた「うたごえ旗」も受け取り、  
私の弾くアコーディオンを先頭にこ  
の歌を高らかに響かせながら円山音

楽堂まで歩き通した。

思えば「若かったなー」、ただ歩  
くだけでも楽で無いのに、代わって  
くれる人も無いままアコーディオン  
を弾きつつの行進で、「今はとても  
出来ぬ」と感慨無量。

♪「渦巻いたデモの中に  
私は加わりました…」

二〇〇九年七月四日、元ひまわり  
合唱団員で組織する団友会が、京



三池闘争には京都からも大量の支援オルグが…

この歌は、安保闘争を謳う組曲、  
「日本の夜明け」の第二曲女声合唱

「母親の歌」で、窪田亮作詞・寺原  
伸夫作曲。

一九五九年秋から、例の安保改定  
反対闘争が全国規模で展開、第一次  
から第十九次まで集会とデモが渦巻  
いた。

♪「燃やせ 燃やせ  
炭坑の男の闘魂を 燃やせ」

この歌は、あの荒木栄が作詩・作  
曲した男声合唱、タイトルもズバリ  
「燃やせ闘魂」

安保と同時に起きた三井三池大  
闘争は、「安保反対と不可分」と位

成立した直後の九月、我々は東山・  
華頂会館の舞台でこの歌を響かせて  
いた。ひまわり合唱団創立一一周年  
記念第一回演奏会である。

この場所は奇しくも中央合唱団京  
都公演で、「うたごえ運動」が紹介さ  
れた場所。

一九六〇年六月に改定安保が自然  
に成立した後、我々は東山・  
華頂会館の舞台でこの歌を響かせて  
いた。ひまわり合唱団創立一一周年  
記念第一回演奏会である。

この場所は奇しくも中央合唱団京  
都公演で、「うたごえ運動」が紹介さ  
れた場所。

「さつき小便したとこやのに、ま

た小便にと二、三回行つた…」とは、

現在西陣織伝統工芸士佐竹利治（通  
称トツさん）君後日談。

ひまわり合唱団の独自演奏会は初  
めて、レパートリーを決めレッスン  
を重ねると併せ、聴衆に来て貰う

夫元ひまわり合唱団団長。呑み助仲  
間は「顔を見れば判るのかも」と全  
員再確認。  
何千人の仲間が腕組み唄つた御存  
じ「頑張ろう」には体が震えた…と  
は簡易保険局出身の中村良雄（通称  
サンパチ）君。

彼曰く「この歌は軽々しく唄うも  
のでは無い」「一部ではソレソーレと  
かけ声を入れたり」「甚だしくはエン  
ヤコラセーのドッコイシヨ」で唄い  
出すグループもあるが、「命をかけ  
て闘った、三池の仲間をどう思うの  
か！」と厳しい指摘。その「頑張ろ  
う」は、

都のうたごえ六〇周年記念「歌う会」  
を開催した。

そして当日、三池派遣団員の報告

部を左記に…

現地に着き三池の仲間と顔を合わ  
すと、「ご苦労さん、まあ一杯！」

と芋焼酎…とは、国鉄出身の酒井文



# 若杉光夫さんを偲ぶ

## ハランバンジヨーの人生に乾杯！



早見栄子（劇団京芸）

### 京大時代から日映演の書記

私が若杉さんに初めてお逢いしたのは、一九四六年です。大映労組の上部機関、日映演の書記さんだと紹介されました。やさしい語り口で、笑うと顔がクシャクシャになるので、すぐに親しみが湧きました。

当時、日映演の京都事務所は、松竹の座館であるSY京映の二階の一室を借りていました。ウワツ、帰りに映画も見られる！一人で、または同期の女友達をさそって、チヨクチヨク顔を出すことになります。

四七年、若杉さん京大卒業。大映労組の充実のため力を貸してほしいです。その時運よく助監督募集中！。受けて見たら無事にバス。すんなりと大映の社員になりました。

その頃の大映は芝居ブームでした。戦争中休座していた「エラン・ピタール」野瀬祐監督主宰も復活。外部からの参加者も多く、活発に活動していました。撮影所の内部では、助監督さん中心のお芝居と、俳優部有志

によるお芝居が盛んでした。若杉さんの入社間もない頃、助監督中心のお芝居が上演され、私達を驚かせます。有島武郎作「ドモ又の死」。マドンナ役の高原あさ子さんを除いて、全員助監督さん。主役のドモ又は加藤泰さん。あの四人の絵書き仲間を、佐藤春人、村上進、田中徳三、若杉光夫。全員適役で堂々たる演技でした。ご立派！

若杉さんは主に、新人監督の加戸敏さんの組で仕事をしていました。

第三助監督。俳優さんの仕事をスムーズに運ぶよう全責任を持つのが仕事です。若杉さんは相手を尊重、偏見を持たず、細やかな心づかいが出来る人なので、俳優さんにはとても評判がよかったです。特に女優さんは人気がありましたが、また総会の時など、じゅんじゅんと優しい声で熱っぽく話してくれるので、若杉さんの話をもっと聞きたいというファンが多かったです。

新人監督と新人の有望な助監督。敏さんにとつて、最も安心して仕事を出来る相手だったと思われます。

敏さんの映画は複数の若い女の子が出る作品が多く、私も毎回たのしくお仕事させて頂きました。

### レッド・ページで裁判闘争

若杉さんはレッド・ページにあってからも、グループの中心になつて私達を引っぱってくれました。特に解雇一年後、失業保険も切れ、どうしても、働いて生活しなければならなくなつた時、裁判闘争に切りかえて、収入を得ながら、闘争を続けられよう提案してくれました。実際の訴訟を起こす段取りを最後までキチンとつけてから、幸いにも、劇団民芸が映画部を設立するというので、誘惑されて、東京へ行くことになります。

彦根で、ありがとうという気持と、淋しい思いと複雑な気持でした。その後の若杉さんとの交流は、一九五三年、京芸の「北京のどぶ」東京公演。芝居を観劇してもらい、一年若杉光夫演出「唐人お吉」に出演。「芝居良くなつたよ」とほめられ、うれしかったです。五七年京芸「西陣のうた」東京公演を観劇してもらい

一〇日後位に二校、そしてつきつぎの大規模の学校がキャンセルになると国で広く読まれているルナールの名作の、言葉をかえるなんてとんでもない。出来ません。その内、三、四年の校長が音頭をとつて、公演をキャンセルするよう、校長会にゆさぶりをかけたのです。ジリジリ重圧がのしかかって来ます。思わず若杉さんに電話をしてしまいます。私が事件のてん末を話すと、彼は、「ひどい話やなそれは。そんな理不尽な事言わしといたらあかん。切りませんて、よう言うたわ。そんでも、後どうしたらええと思う」と言つた。私は「応分のキャンセル料をもらつて、劇団の予算の目減りをふせぎたい。もし全部の学校から、こちらの言い値のキャンセル料がもらえたら、理不尽さを、少なくとも半分は認めた証しにもなるし」と。「あつそれでええ、それでええ。自信持つてやりや」と若杉さん。勇気が湧いて来る。そして根気よく学校を廻つて、一校残らず払つてもらいました。

七八年、ページ仲間の黒田清巳さん死亡の知らせが劇団へ。とるものもとりあえず、通夜に間に合うよう、西武線、仏子の黒田宅へかけつける。京都から、村上、鈴木のお二人が先着していた。翌日の葬儀で若杉さんと逢う。神戸の仕事場へすぐ帰ると言うので、京都までご一緒させても

持つて、京都市内公立中学校を巡演中に、「くつ屋にでもなるか」の一言が言葉狩りにひつかり、「他の商売になおしてくれ」と言われ、断ると、

らう。神戸市の同和問題の差別をな

くそういう一連の仕事である。た

しか「コスモスの咲く丘」という題

名であった。運よく私も出演させて

もらう。若杉さんらしい優しさのあ

ふれた仕上がりで、評判もよかつた。

その後、去年一二月に亡くなられ

るまでの三〇年の内、前半の二〇年

は、私が民芸のお芝居を観に行つて

樂屋に寄る。また若杉さんがたまに

珍しく、私の店（ファニイ）に立ち

寄つてくれたりといつた感じでした。

後半、脳梗塞で外出出来なくなつて

からは、ごくまれに私が電話する位

でした。が、しゃべるのがしんどそう

で、電話するのも遠慮しがちになつ

て来ます。

### 私の受賞にお祝いの一文

二〇〇六年六月、京都市芸術功労賞を受賞した私のお祝いのパーティに、ご夫妻が一文を寄せてくださつてますので、掲載させて頂きます。

南風洋子：おめでとうございます。

随分御無沙汰してしまいました。若杉は昨年秋二度目の脳梗塞でベッド

と車椅子の生活です。でも気持ちだけは元気で居ります。御受賞をとても喜んで原稿用紙に書きましたが、このまま送らせて頂きます。

さくらんぼをぶらさげてゴキゲン



のまま送らせて頂きます。

若杉光夫：ショッチャンが、すてきな賞をもらつた！ それだけでも

う涙がとまらない。よかつたね：よかつたね！ 大映以来のつき合いだから古い仲間だ。二人ともハランバ

ンジョーに生きて最後は落ちつく所に落ちついた。いささかの後悔もない！ 相変わらずビンボーをぶらさげ

てゴキゲンである。おめでとう！ 更に前進を！

ありがとうございます。私がページ組の中で、一番年下だったから、きびしい挫折を乗り切つて行けました。またまた勇気をもらいました。ありがとう。

若杉さん、むかし私、何で法律の勉強しておいて、そのお仕事せえへんのつて、聞いたことありましたね。

それに対して若杉さんは「ウーン、検事の優秀な場合は検事の言う事が、弁護士の優秀な場合は弁護士の言い分が正しくて、判事はそのどちらか

の答えを選ぶだけで少しも面白みがない。立場は一番安定してるけどな」と答えた。その言葉はいろいろに取

れて、しつくり胸に落ちなかつたことをおぼえています。今回のメツセージ、率直な語り口でうれしかったです。特に「二人ともハランバンジーに生きて、最後は落ちつく所に落ちついた。いささかの後悔もない！」ビンボーをぶらさげてゴキゲン

である」明確なメッセージを頂きました。感謝！

演出家若杉さんの人間を見つめる

まなざしはやさしい。温かい。語り口はじゅんじゅん淡々として、無理なく作品世界に連れてつてくれる所

が好きです。その中でも「星の牧場」と「雨」が大好きです。感動しました。

若杉さん、やつぱり貴方の天職は、映画やお芝居の演出だったんですね。

よかったです。民芸の事務局長のお仕事が好きです。その中でも「星の牧場」と「雨」が大好きです。感動しました。

若杉さん、やつぱり貴方の天職は、映画やお芝居の演出だったんですね。

よかったです。民芸の事務局長のお仕事もご苦労様でした。

ご自分の資質を生かして存分にお仕事をなさつた若杉さんに乾杯！！

親愛の思いもこめて。ありがとうございました。

若杉光夫さんは1922年、大分県生

まれ。京都大学法学部卒。45年10月、在学中から共産党や民主・労働運動に参加。2008年12月18日死去。

終戦直後の若杉さん

一九八〇年に発行された『安井信雄小伝』（同出版発起人会発行）に寄せた文に

次のような記述がある。

「一九四五年一〇月、新聞会館で行なわれた『解放運動犠牲者出獄歓迎集会』には、当時下宿させていた小林為太郎弁護士につれられて、ぼくも参

加していたのです。京都大学に社会科学研究会を復活させようと、会の始まる前、

演説をやらかした思い出の日。（中略）散

会後、集まってくれた学生は同志社大一

名、立命館大二名、京都大二名、それが

戦後の京都における学生運動の核になつたのです。」

清水武彦さん（元京都市経済局長、右京区在住）がキリスト教の雑誌「共助」に「キリスト者市長・高山義三論」を連載している。（二月号まで）

来年には「占領下の京都で」など

いよいよ市長選に入つていくが、高

山寛氏からの聞き取りもされており興味深い。

### 清水武彦さんが 「高山義三論」を連載

この雑誌は「基督教共助会出版部」（東京）から発行されているが、清水

さんは「高山市政についての今日的評価を一緒に考えたい」と「キリスト教

についての今日的評価を一緒に考えたい」ので「キリスト教

青年・義三の思想と左派人民、刑事弁護士に、（6）冤罪を防ぐ、（7）昭和初期の京都」と統いでいる。

清書をしようかと思いましたが、こ

れで、清水さんは「高山市政

についての今日的評価を一緒に考えたい」と「キリスト教

**10  
明けましておめでとうございます**

## 京都教職員組合

執行委員長 藤本雅英

京都市左京区聖護院川原町4-13 京都府教育会館内  
075-752-0011 FAX075-751-1091

## 京都市教職員組合協議会

京都市左京区聖護院川原町4-13 京都府教育会館内  
075 (771) 9171 FAX075 (751) 0851

## (社)部落問題研究所

〒606-8691 京都市左京区高野西開町34-11  
075-721-6108 FAX075-701-2723

## 京都民主医療機関連合会

京都市右京区西院久田町9  
建設会館5F

## 京都民医連中央病院

〒604-8453 京都市中京区西ノ京春日町16-1  
075 (822) 2777  
<http://kyoto-min-iren-c-hp.jp/>

## 社団法人信和会 京都民医連第二中央病院

京都市左京区田中飛鳥井町9  
075-701-6111 (看護士募集中)  
[URLhttp://park12.wakwaku.com/~kyoto2hp/](http://park12.wakwaku.com/~kyoto2hp/)

## 本のことなら

ブックセンター

京都唯一の民主書店です

本の風

株式会社

かもがわ出版

今年も話題の本をお届けします

株式会社

ワインかもがわ

心に伝わる本づくり、自費出版の相談は

FAX  
075  
(4415)  
5779002

FAX  
075  
(4322)  
52286698

FAX  
075  
(4322)  
52386698

## 京都自治体労働組合総連合

執行委員長 山村 隆

京都市中京区壬生仙念町30-2ラボール京都5F  
〒604-8854 電話075-801-8186 FAX075-801-3482

## 福祉保育労働組合京都地方本部

執行委員長 前田鉄雄

京都市上京区竹屋町通千本東入主税町1100-1  
京都福祉保育総合センター内  
075-813-4800 FAX075-822-6220

## 日本国民救援会京都府本部

京都市中京区壬生仙念町30-2ラボール京都5階  
〒604-8854 電話075-801-3915 FAX075-822-6632

## 宇治山宣会

会長 蔡田秀雄

〒611-0033 宇治市大久保町北の山11-1蔡田秀雄気付  
TEL0774-48-2472

## 市民共同法律事務所

京都市中京区烏丸通二条下ル西側ヒロセビル2階  
TEL075 (256) 3320

## 京都第一法律事務所

京都市中京区烏丸通二条上る蔵絵屋町280番地

マニュライフプレイス京都ビル4階

TEL (075) 211-4411

FAX (075) 211-2507

|          |           |          |
|----------|-----------|----------|
| 弁護士 秋山健司 | 弁護士 大河原壽貴 | 弁護士 村井豊明 |
| 弁護士 浅野則明 | 弁護士 大島麻子  | 弁護士 村山晃  |
| 弁護士 荒川英幸 | 弁護士 奥村一彦  | 弁護士 森川明  |
| 弁護士 飯田昭  | 弁護士 藤井 豊  | 弁護士 吉本晴樹 |
| 弁護士 糸瀬美保 | 弁護士 藤澤眞美  | 弁護士 渡辺馨  |
| 弁護士 岩橋多恵 | 弁護士 水野彰子  | 弁護士 渡辺輝人 |

元旦

## 京都の民主運動史を語る会

|     |      |              |      |
|-----|------|--------------|------|
| 蓮佛亨 | 会計監査 | 湯馬堀藤田黒川小川奥稻井 | 岩井忠  |
|     |      | 浅原江井北住合      | 手和達幸 |
|     |      | 俊八舒亮嘉葉       | 喜徳郎夫 |
|     |      | 彦郁郎之介輝子      | 熊喜   |